

GISを活用した自然環境の定量評価



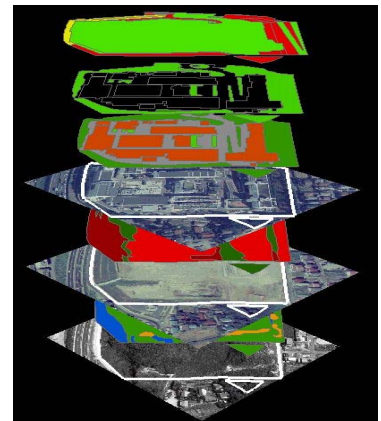
『自然の豊かさ』を独自の指標で数値化し可視化する技術

お客様のメリット

○工場の建設時などに生態系への影響を考慮した建物計画を行い、自然環境に配慮した企業活動を進めていることをアピールできます。

技術の特徴

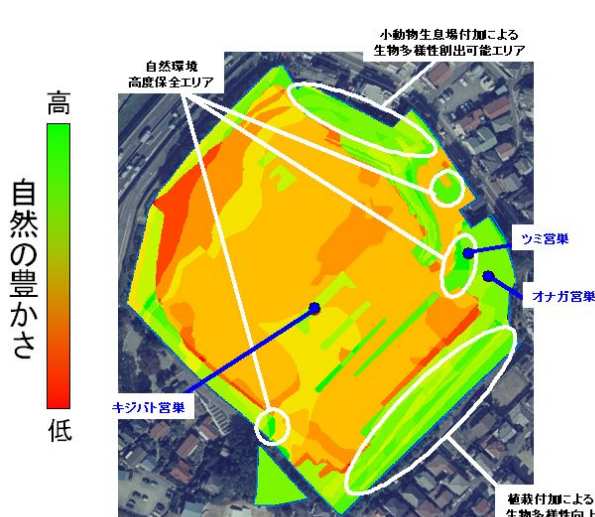
- ・『自然の豊かさ』を視覚的に把握できる技術です。
- ・工事現場とその近隣地域の植生、土壌、水源涵養力や生息する希少動物のすみやすさを点数化し、GISにより当社で開発した指標を用いて、自然の豊かさを評価します。
- ・図面や地図上に『自然の豊かさ』を色分して表示できるため；
 - ①自然環境に配慮した敷地内の建物レイアウトなどを容易に行うことができます。
 - ②範囲を広げて評価することで、地域における工場建設エリアの重要性を容易に理解できます。



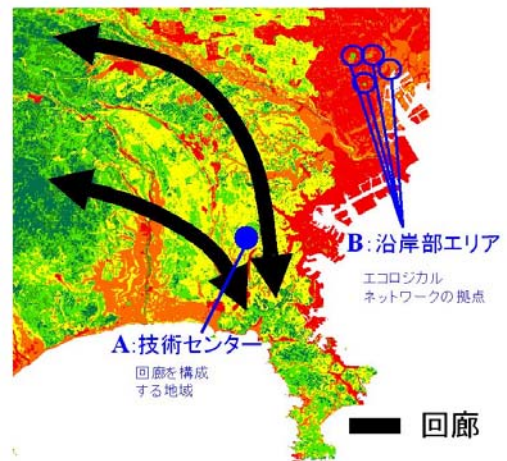
※GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) では地図上にさまざまな情報を重ね合わせて解析、表示、検索できます。

- ・建物周辺に質の高い自然の豊かなエリアがあることを視覚的に確認できた。
- ・2006年に鳥類誘致を行った範囲の自然の豊かさは高く、誘致活動の成果を視覚的に確認できた。
- ・奥多摩・丹沢から三浦半島につながる「回廊」の存在が明らかとなった。
- ・地点A,Bの『自然の豊かさ』は類似したが周辺環境が異なるため、各エリアの環境特性に合わせた建物計画などを提案できる。

実績・事例



■リニューアル後の技術センター



※回廊は、自然の豊かさが高い領域が連続的につながった、野生生物の生息と移動にとって重要な通り道（または廊下）です。

■神奈川・東京周辺